



RMEのメディカルモールプランは医院開業をサポートし地域医療への貢献をした上、土地オーナーへの高収益を実現する。

医師の開業をサポート／地域医療の場を提供

医療モール開発に加えてメディカルビルの企画・仲介も行なう日本RME。一方で、医師の開業を支援するコンサルティングにも取り組む。医院・診療所開業の企画・立案、開業地選定、診療圏調査、資金調達など開業までのサポートに加えて、開業後のコマニシャル活動も含めてグループ会社の理創とともに、医療専門のコンサルタント、設計士、医療関係の印刷物やウェブデザインを得意とするデザイナーなどと連携し、万全のサポート体制で取り組んでいる。

地域貢献型土地活用で安定・高収益を提供

同事業は、土地活用という点からは不動産オーナーに安定した高収益の提供を可能にする。宇野社長はグループ会社の理創の企画・仲介物件の平均利回り17%という実績から、12〜13%の利回りを設定している。比較的初期投資が抑制できることが高収益につながる。かつ医療施設であることが長期的に安定した土地利用計画を望める。


地域医療に取り組みたいという医師の発掘と、医療を提供することになるこの土地開発プランは、社会貢献型事業ともいえ、公的信頼性も高い。急激な変化を見せようとしている日本社会。その激流のなか、日本RMEは九州の拠点都市・福岡から、地域医療への貢献を通して事業展開を行なうというフロンティアへ挑んでいる。

医療モール開発で安心の街創り 医院開業支援と高収益土地活用

ホームドクターを身近に／地域に安心を提供

㈱日本アールエムイー（以下、日本RME）は、不動産業界において、九州初となる医療モールの開発という新たな事業に乗り出した。同社代表取締役の宇野敦氏は、複合商業施設・オフィスビル及び倉庫付き事務所などの事業用賃貸物件の企画・仲介でたしかに実績を持つ㈱理創の常務でもあり、同社の蓄積を活かしての新規事業だ。

国土交通省は、都市整備事業の方向性を量的拡大から、生活を重視した質的深化へと大きく変えた。「身近なまちづくり支援街路事業」がその例だ。街路整備にあわせて、沿道商店街の近代化、景観や町なみの保全、セットバックなどの身近な生活空間整備を支援する。日本RMEが取り組む医療モール開発事業は、このような行政の街創りに関する政策転換を、民間の力で先取りした公益性が高いものといえる。200坪を最低限とする敷地に広い駐車場を確保し、内科・整形外科・小児科など4〜5科の医院と調剤薬局を併設するモールを建設する同事業は、都心に集中する医療機関を分散させ、より住まいに近いところでの医療サービスを地域に提供できる。また、大規模医療施設では医師との間に距離感があるが、医療モールに併設された各科、個別の医師からは、文字通りホームドクターとしての信頼を介した医療を受けることができる。モール内の医師による連携でワンストップの総合検診を受けることも可能だ。



株式会社日本アールエムイー
代表取締役
宇野 敦
の あつし



会社住所：福岡市博多区博多駅東 1-10-23
新幹線ビル1号館 5階
TEL：092-481-1755
URL：http://www.n-rme.com/

2007-DATA.MAX

私が描く未来予想図

福岡への提言

200人